

令和 3 年 5 月 14 日現在

機関番号：82705

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17H01031

研究課題名(和文) 通常学級における子ども・教師の多様性を包含する多層指導モデル実現への地域協働支援

研究課題名(英文) Cooperative Local Community Support Towards a Multilayer Instruction Model that Subsumes the Diversity of Children and Teachers in General Education Classrooms

研究代表者

海津 亜希子(Kaizu, Akiko)

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所・研究企画部・主任研究員

研究者番号：00342957

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 24,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究においてはいくつかの下位研究を設定したが中でも本研究の根幹でもある地域協働支援の実現に関しては多大なる成果があげられた。具体的には地域として多層指導モデルMIMの理解・啓発を図りたいとの応募のあった地域を対象にMIM理解・実践セミナーを研究期間中、北海道、宮城、栃木、東京(計2回)、山口(計2回)、福岡(計3回)で実施することができ、計2,000名以上の参加があり、90%以上の最も高い評価(「有益であった」)が得られた。あわせて教育行政担当者を対象としたMIMサミットは、3年間毎年度実施し、のべ97地域からの参加があり、参加者の95%以上が最も高い評価(「有益であった」)をした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究者からは最新の研究知見の提供、また先行的に多層指導モデルMIMを導入している自治体からは実践報告および成果と課題を報告する「多層指導モデルMIMサミット」が研究期間内に3度実施された。これにより、学習のつまずきへの早期把握、早期支援に課題があり、解決策を模索している自治体が、本サミットで情報提供されたことを基に、効果的な教育政策の立案へとつながられた。具体的には、仙台市、さくら市、松戸市、我孫子市、板橋区、相模原市、横須賀市、浜松市、川越町、寝屋川市、尼崎市、長野県等の自治体であり、このように、研究で得られた科学的根拠が、実際の教育政策へと反映されたことの意義は大きいと考える。

研究成果の概要(英文)：In this research, we had planned several pieces of research, and great outcomes were obtained regarding the realization of cooperative local community support, which is the main objective of this research. Specifically, Multilayer Instruction Model(MIM) seminars will be held in Hokkaido, Miyagi, Tochigi, Tokyo, Yamaguchi, and Fukuoka which intended to pervasive the MIM. A total of more than 2,000 people participated, and the highest evaluation ("beneficial") of more than 90% was obtained. In addition, the MIM Summit for educational administration staff was held every year for three years. There were participation from a total of 97 regions, with more than 95% of the participants giving the highest rating ("beneficial").

研究分野：教育心理学

キーワード：学習困難 予防的支援 アセスメント 地域ワイド 多層指導モデル

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

我が国がLDの定義を検討する際にもその概念を踏襲した米国においては、2015年にEvery Student Succeeds Act(ESSA)「全ての子どもが成功する法」が制定された。これは2002年のNo Child Left Behind Act(NCLB)「一人の子どもも落ちこぼさない法」に代わるものである。この理念を実現するために全国(州)レベルで導入されているのがResponse to Intervention (RTI)という「効果的指導を実施し、さらに子どもの反応に応じ(アセスメント結果に基づいて)指導を変えていく」モデルである。これを基にし、我が国の教育事情に鑑み、開発したのが**多層指導モデルMIM**(Multilayer Instruction Model; 海津・平木ら, 2008; 海津・田沼ら, 2008, 2009)である(図1)。

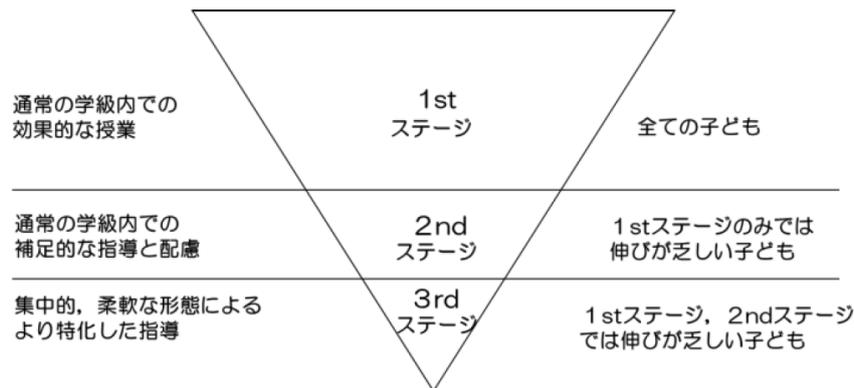


図1 通常の学級における学習困難への多層指導モデル

今や多層指導モデルMIMについては学校単位だけでなく、地域内全小学校に導入する自治体や、モデル校を指定しながら全小学校への導入を図る自治体等も出てきている。

そこで、こうした科学的根拠に基づき提案しているモデルを教育現場の中で実際に導入していく方法について、さらにはモデルの導入を図っている自治体から今後導入を検討している自治体へどのような情報を提供することが有用かについて把握し、地域ワイドでのモデルの導入を研究サイドのみでなく、実際に先行導入している地域が他地域を支えるようなシステムの構築を図ることができないかと考えた。こうした考えが実現化すれば、当該地域の子どものみならず、地域を越えた子どもたちへも貢献するというより積極的な教育への貢献が研究成果(知見)の受け手である地域(自治体)を通してなされ、非常に意義があると考えた。

2. 研究の目的

2006-2008年度の研究で開発した「多層指導モデル(MIM)」が、2010-2012年度の研究期間において、学校全体で取り組みたいというところや、地域で取り組みたいというところが徐々に増えてきた。そこで、2013-2016年度の研究期間においては、地域ワイドでの取組へと汎化させるべく、全国16自治体と連携を取りながら、「多層指導モデルMIMによる学習のつまずきの早期把握・早期支援」を実践し、多くの自治体から効果が報告され、実践の継続が図られている。一方、各自治体においては、多層指導モデルMIMを導入するにあたり、様々な課題を感じているのも事実であった。

そこで、課題解決に向けた科学的根拠の提供の他、MIMの実施地域間において成果・課題に関する知見を共有する機会を持つことで、地域同士が支え合い、課題解決を容易かつ着実にする協働支援の構築を行う。

3. 研究の方法

地域レベルで多層指導モデル MIM を導入している複数の自治体(教育委員会)と協働し、各自治体が既に実施してきた上での効果と課題を互いに共有・蓄積する機会として、情報共有会(MIM サミット)を開催し、その効果を検証する。あわせて、近接する地域で多層指導モデル MIM についての理解啓発を行い、教育行政がトップダウンで教育施策を行うのではなく、教育現場からのニーズとしても醸成できる環境を作るための多層指導モデル MIM 理解/実践セミナーを企画・立案し、その効果についても検証を行う。

4. 研究成果

研究期間中に計3回(毎年度12月)、教育行政を担当する者を対象に多層指導モデル MIM サミットを行うことができた(図2)。

初年度は30地域、2年目は32地域、3年目は35地域からの参加があった。この3年間で、MIM サミットに参加したことをきっかけに20地域が新たに教育政策として多層指導モデル MIM を導入することになった。

また、多層指導モデル MIM サミットでは、午前中に先行実践地域からの話題提供、午後からは協議という二本立てのプログラムで実施したが、午前、午後のプログラムともに、3年間を通じて、有益であったかについて4段階で尋ねたアンケートでは、95%以上で最も高い評価が得られた。なお、自由記述については、「導入した事例について学ぶことができた。学力からすすめるか特別支援からすすめるか、自分の市には学力で今後おしていこうと思った」「具体的な取り組みの内容、そして今後の課題について聞く事ができて良かった。自分が取り組んでいて困ったことについても他の自治体でも悩みながら取り組んでいることがわかった」「具体的な各地取組を(推進する立場での)知ることができて良かった」「成果だけでなく課題も共有できた」「地域によってニーズが異なり、いろいろな方法で MIM を実践されていることや、その進め方がわかった」等の意見が得られた。



図2 多層指導モデル MIM サミットの模様

あわせて、近接する地域で多層指導モデル MIM についての理解啓発を行い、教育行政がトップダウンで教育施策を行うのではなく、教育現場からのニーズとしても醸成できる環境を作るための一般の教員らを対象とした多層指導モデル MIM 理解/実践セミナーを企画・立案した。

このようなセミナーの企画を希望する自治体に対して公募を行った結果、北海道、宮城、栃木、東京(計2回)、山口(計2回)、福岡(計3回)においてセミナーを実施した(図3)。

計 2,000 名以上が参加し、こちらについても有益であったかについて尋ねた参加者アンケートでは、90%以上の最も高い評価が得られた。



図3 多層指導モデル MIM 理解／実践セミナーの様相

このように、研究で得られた科学的根拠が、実際の教育政策へと反映されたり、実際に教育現場で尽力している教員らに速やかに伝えられたりしたことの意義は大きいと考える。

また、科研での成果報告を速やかにかつ広く伝えるために、web サイトを作成した (<http://forum.nise.go.jp/mim/>) (図4)。こちらでは、研究知見に関して質問を受け付ける窓口機能を有するとともに、研究知見に基づいた実践を教育現場で実際に行った教員からその実践報告や更なるアイデア(指導・教材)等についても受け付けており、実際に双方向のやり取りが実現できている(図5)。



図4 多層指導モデル MIM の web サイト

トップページ > MIM関連資料

MIM関連資料

ここでは、MIMを実践している（しようとしている）方からのニーズが高く、お役に立てそうな情報を発信しています。

検索

◀前 1 2 3 4 次▶ カテゴリ 新着順 10件

カテゴリ	MIM指導法関連
タイトル	MIMの指導教材に関する資料 1
内容	特別支援学校での実践報告（北海道室蘭養護学校 野呂純子先生20200427）
資料ダウンロード1	読み書きに関するゲーム「音読クイズ」説明書.pdf (1192)
資料ダウンロード2	音読クイズ・音読する文章.pdf (1076)
資料ダウンロード3	
	詳細を表示
カテゴリ	MIM指導法関連
タイトル	MIMの年間計画例（令和2年度版②）
内容	新潟県山田康子先生作成
資料ダウンロード1	1学年の指導事項と授業時数の配当とMIM指導（光村図書）令和2年度版_新潟県山田康子先生.pdf (1128)
資料ダウンロード2	
資料ダウンロード3	
	詳細を表示
カテゴリ	MIM指導法関連
タイトル	MIMの年間計画例（令和2年度版①）
内容	上田市教育委員会作成
資料ダウンロード1	1学年の指導事項と授業時数の配当とMIM指導（光村図書）令和2年度版_上田市教育委員会.pdf (1033)
資料ダウンロード2	
資料ダウンロード3	
	詳細を表示
カテゴリ	MIM指導法関連

図5 実践者から寄せられた多層指導モデルMIMに関する指導や教材を紹介するページ

また、昨今のコロナ禍を受け、子どもの学習環境の厳しさも教育現場より聞こえてきている。そこで、webサイトの中にオンライン学習を立ち上げ、学校および家庭においても学習の保障ができる機会を提供した（図6）。

見をおよせください ▶

MIMオンライン学習 2020/06/29 11:49:11

みなさん、こんにちは。海津亜希子です。
 突如休校措置に入った3月は、ちょうど3rdステージ指導が行われる頃でしたから、最も支援が必要な子どもたちは一体どうしているのだろうと、その子どもたちの今後が今でもとても心配です。
 また、4、5月と休校が続きましたが、この頃は読みの学習の基礎ともいえる重要な期間です。こちらについても、これからどのように子どもたちに確かな学びとして届けられていくのかとこれまた心配になります。
 そこで、少しでもお役に立てたらとの思いから、MIMの指導法を用いた特殊音節に関するオンライン学習を考えてみました。ぜひご活用頂けましたら幸いです。

<MIMオンライン学習>

① はじめに、以下のURLにアクセスし該当する特殊音節の動画を見ます。
 動画URL：https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/ten_download/2016/2016059861.htm

② 動画を見た後、該当する特殊音節の「基本学習のプリント」を行います。

③ 最後に「かだめしのプリント」を行います。

【促音】
 動画：促音の指導～ねことねっこ～
 ↓
 促音（小さい「っ」）
 プリント → [促音の基本学習](#) (pdf)
 → [促音のかだめし](#) (pdf)

【長音】
 動画：長音の指導～おばさんとおばあさん～
 ↓
 長音（のます音）
 プリント → [長音の基本学習](#) (pdf)
 → [長音のかだめし](#) (pdf)

図6 多層指導モデルMIMのwebサイト中にあるオンライン学習コンテンツ

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 海津亜希子
2. 発表標題 Multilayer Instruction Model-Progress Monitoringデジタル版の標準化にあたって タブレットでの実施と紙での実施との比較
3. 学会等名 日本LD学会第27回大会（新潟）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 海津亜希子（一般社団法人LD学会）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 金子書房	5. 総ページ数 142ページ中9ページ
3. 書名 『アセスメントと指導との連動でLDを把握する意義.』, 書名: LDの「定義」を再考する	

1. 著者名 海津亜希子（宮本信也編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 170ページ中11ページ
3. 書名 『多層指導モデルMIMを用いたつまずきのある子どもの指導』, 書名: 学習障害のある子どもを支援する	

1. 著者名 海津亜希子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 学研教育みらい	5. 総ページ数 160
3. 書名 個別の指導計画作成と評価ハンドブック	

〔産業財産権〕

〔その他〕

多層指導モデルMIM
<http://forum.nise.go.jp/mim/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	玉木 宗久 (Tamaki Munehisa) (00332172)	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所・発達障害教育推進センター・主任研究員 (82705)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------